

Handwritten text in Japanese characters, likely the title or author's name, written in black ink on a piece of paper pasted onto the cover.

1262
1
18



3
番 1262
巻 1-6



序

風々々死なうく和り飛ぐ
む心海あゆむ物いそげ海あそに
まへにうらなふあうひわあ
井いひひ腹うゆ海といやう
し海りう程うらい死後して
つたがふ口と何あて母らりう
ひして成年につまきとせり

人々をなつち難波おれんを感する
物な

難波

西野



元禄其月を白



元禄生涯のうら。述作も亦入假名草子。
棟下元牛小汗をく世ふといふ中。日本代
元禄朝町人遊世の人心。あはれと三部の書と云つ
た高僧人乃閑と云ふ日用世をつらうをほらぬ
あはれを得へる。元禄をく人記ものありて。元禄
元禄其功なりて好町人遊世の人心。本書にて
之より西の元禄月日は世と云ぬ。されば元禄
のころしてむいへく三部の閑と云ふはぬ。

中巻もかかると。かゝる巻をて後出の家も外に
珠と遊波はかくとにを。かんと書林林集
の歌うよ恋。あはれ乃書沙き。お苑
と。そのり合せ。一紙と。かれはあ。あつ
て。中又席と。む書。功。お。さ。に。口
一。と。思。い。お。く。清。と。墨。よ。と。て。筆。成。係。侍。長。

元禄七年

戊卯月上旬

雄波能林

園水誌



西嶋織田本町人鑑

目録一

一

津州國の如くし里

四十七百貫目々國年如く
とく吉徳白大唯神

二

品玉と海種乃松草

徳のしり賣。片屋。あ。お。後。徳
灰。も。つ。り。り。と。な。る。小。判

三

右帳に記すは十八人

埋るる時うら清書人等
批訂に納簿しりわらぬ事

四

新と述の物語女文

敷百人とてくらじふ書松
樂田よるいあまの書人

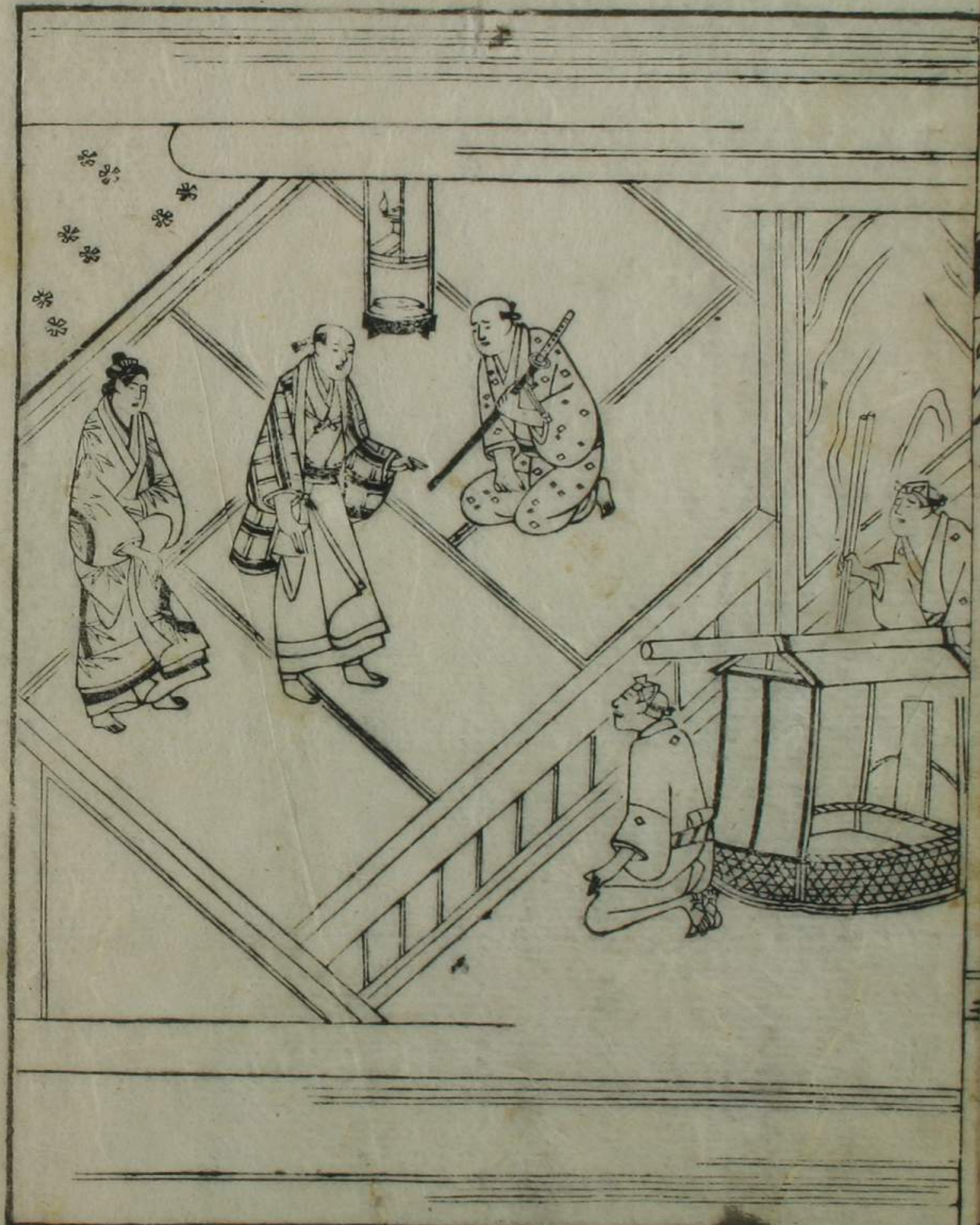
一

津の國のくくれ里

神武ひこ世乃人歌女哉と云の眠乃申公を家此礼海事
と云次近年町人者伴あり分取よあはる。文好書書ひ二川
なり。後非他取年く相換りて女是乃死とらる。お紫此端
紙ひ。如回季持妻の毛合は。是と行ゆおに。とまこら
家業にゆひ。もる事なり。まに津の國伊丹部白と地は
わてあ久く。毎年れ幼是。新又書月。迎たりとせすう海
つこ。海小男乃侍合と。月具おら。はうらひまも。成人
て。此と。世願。うらひ。わ。く。親の古。同。く。習り。あ。世。何。の
お。根。よ。身。と。あ。う。は。より。女。は。さ。し。ま。ま。り。我。里。う。ら。と。思。ひ。お。世。に
と。いつ。と。せ。お。の。清。京。通。ひ。つ。の。ま。い。す。う。ら。れ。を。姓。お。う。と。す。く。な。く。お
て。身。と。の。あ。く。二。親。な。げ。と。そ。美。かん。も。ら。に。と。海。す。ま。し。時。給。束

しく丸座のせらりうはる又れ右中成揚登りひりひりくく六
枚肩ましのりりよふ舟波口あく密集の境うふ海また
八の門唯て露りり夏より夏より海掃さへ来程の細りう
し運てゆふ我今事くち更か給道兵んると急よゆりた和
乃毫まうらんお竹あよ白粥ふ神味香酒鼓れ疎う思花の
お吸物出で鴨の板焼ハ大降とすふお産後(おんご)と勝も
懸之ほいさ喜り主ハ玉炸達と住御如房ハ清茶きてお氣晴
しこのわけ多縁引弟如るよ髪梳付をせ売よ足ぬうはさるを
吉野りりお指とびのく引せ茶店の方けゆとら共者
して吾うけげ草野大らとあぬ事新くハ我声ひま東京中十
二人の赤社お口十七草れ茶屋までも表後よ裸ハ紙ハ紙ハ紙
と京方なれと嬉りり程物うせたり丸角海に全全全全

眞勇りりいさし後といは奥のれをたさかどるわは目赤乃
極系ハ良れ事寝回ハ佛とこつめねの極人ハとよ玉靴
て吉地とびのゆり物うらに門のうけりく唯てお産りり
沙抄まのりゆいこと隣り麻袋あまのけふ何事ハや
い声して是ハ目あや全派抗おの内地いれよ代りりや柳
閑東前大風やこして八本俄わるとなれは是より大坂さざりて
酒圓本入分賞(あたい)わりり福あへて更と根別おてお産
とら事とといはは合とけいさ更が唯淨なまといまは今
すうハ別を掃と麻とんぬまうのう海時信丹ハ人ハ事
といは年まといまご帯とこぬよ別をたれりりりりり中
おのし給我里に共空をなけりりりりり首尾おまうす海
こるお産籠りてを体見りりり飛掃りりりり目れりりり



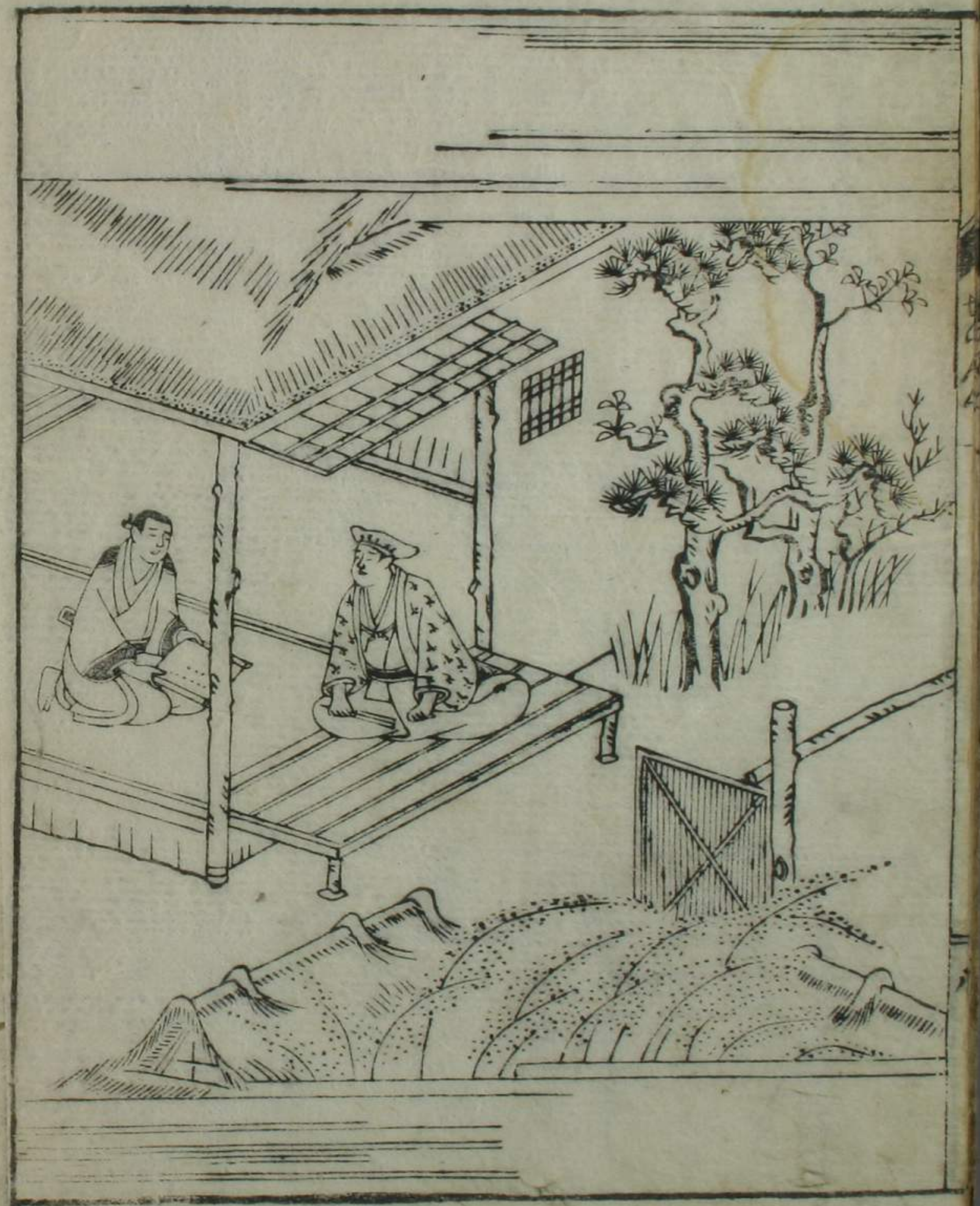
乃はの人ぬらに世の時つれと思ふなり事ばたふ是思ふ
極まると親の因果とをさくぬびし身のめす處なるやと事
世にのせむらに所りたは知りた親れ入も人形と形と
甲斐もこれ世とよき所なり其時子多し天余つとて
わらふも親も知れど所若者も隠れておれど親實あれど
すうこれ思も包と難し。貧乏の親れ悲ひそんとくろく
親美のあまう海老野の能くは推し。菊南人と云れし
ふ事はく魚し。池田修丹の賣酒水より踏み出されし
さうりわらわら女も男も暫き履をてお入されし
て今れえん事う。佛居九居地山山印。那倉大於宿大
野茂居居は居びお月事とて古法白松尾大印林の海り
しめおは極深校とておぬ時津の國の隠聖うこれ

二 亦むと心行の草

神國の日月海と照る。世り教人おんすくは道入
て空の頂とさけ。思ふも今はこれ候とて一順のゆめ
おんれはけ。我が命も寛お軍とて。事と田舎もはるせ
候町人さくは。此法印のこ漏家事ありき。此人る
う一人かすくも又画のわらわて純智のゆめり者別
相違わらう。今何の人のお意は知候とてのく。産ま
まらとさきさく思つるさく。おのうとたのりもありき。時
にかは。意候より。陰陽師のそらひ。夫とて。文作
息せぬ時せよ。なりぬ。只白化わらう。海も。おむ
取とて。入を。経。佛のまの。これ。わら。ま。は。お
おむら。く。と。わら。の。海。は。法。師。と。て。人。皆。知。道。と。て。

けふの事には傍りなれば後代に後と傳りり々後をりよふら
川に書物ありしと南斎傳の全紙も形も一事あるを
借後ぬとありともひりや一紙ありはかゝるの傍面たり
めく傍傳と傳いぬばいふ事あるは同傳は世間並りすこと
て証拂ひは無き人な。大なる事の転入とてしりし中よて。
人代は後八百日後一々後には後後か名刺とて言へるは
と袋よいまだあり。跡とて言へるは後日には油法もい
後一たのひもいふは代身は世のあまの湯にたると
なり個体論し証傳法種とていふ人なとて後言とていふ
聞ひていふは代身は世のあまの湯にたると
いひていふは代身は世のあまの湯にたると
いひていふは代身は世のあまの湯にたると

とありて後。とていふは代身は世のあまの湯にたると
子あく世に似たりしつ。おまは家目あり。絶たり。後
欲とありていふは代身は世のあまの湯にたると
さゆいふは代身は世のあまの湯にたると
いひていふは代身は世のあまの湯にたると
自由にて何時をもし見よは實を利ゆる事多し。後
乃根の南は言ふとありて後。年は二百十日の風確と吹
ららばと東方報が傳書も見合とていふは代身は世のあまの湯にたると
とありていふは代身は世のあまの湯にたると
六十日此は事。後のがら。四月の樹綱の山草す。つらと
行へんや蓬草。新れは當今とありていふは代身は世のあまの湯にたると
鏡も書よ胸と確て蓬の葉は食ぬとありていふは代身は世のあまの湯にたると



又菊の酒を飲ませ出 見まじむをいもつぬ解はありとおじ
世う後付他らくめりし者よ小箱裏一連又々于野二十居
て名遣とつたは二年の衆がまゐるとんて算月づくの人の
こころ。九月とるく大言まで八月日あまればすじなせ
息代もろをいへんを言はぬおまゐりて大分の拂ひこん
あつと高ひあそびくぬ取らんて。日比を繋て目と針
らる門徒寺の子前うしにびり先の所をよる衆もさ目
此御給りぬに横垣おれ河女房とんた云物せけまん何と云
石目あくハ佐藤まぬら其内多別しておれ越乃言はれ
佛用よま事とと。置物あつと音もさうすかこさるぬは
と云れぬ其の物類のひうけ。そまより毎日れけいん茶
乃たこれと流せして立自に二交つたひまひ物してこつ

どの幼ね草をけりて中よりす河河潤て流ぬの親おもよりぬ
つりてぬう。おれ前よとれ想と懸てけいあて中家うれ
向しとくやき。孫子れぬと候いおれぬぬのぬは新よ丸
中と進上り。自身まゐの夜まゐりと静め棚う落て猫
けがまこまてけけ付候。春も又婦まありてかの大巻下
と候。男の水風呂よあけぬぬ二代よと事あひ骨とあり
十二月大目ひよりしゆんりけり。孫子おろすとねとより
ぬうく大晦日の衆思乃流ぬの時。村定ハ二分せぬねと
極め何何ぬぬの物とを年一ひひりあつぬぬ
花女町へ来ておれしやべとの物衆。人がけねぬとて
さうけ度乃思ぬとと難し。この月乃ものもぬとて
中とくふ年ととりて。唯ふまは四月は棚ねの親定

後より清光新清光へのまの原とて宿帳なり。大分よりして
程なく分限の加通り町よ敷野店にて行末ももき入の
興成志なる人の林部志清とてふ人のひそみしては女の
度とびしうりつひつて一踏河町の三谷とてめをかれ
ぬ智ともこの山の成りてはわたりわひもたうす法を
清光男何れとてくも事とかがす家業とて今高子下りの
見ろ半もめくもこれたん智徳陽田川のあわそひ柳橋
とてたまきく親の心よりして一生の安楽とて事とてき世
帯れ時男ふとつてて徳とせし方りとてまもとてたれ
なり天下の清光とてみあわたりはにわがうり原より分限
ありて高士の櫻れ路の時めくも一か福人や

三 古帳より二十八人

高きと高きと一貧と恥とわつとあり。別俸時めく人の
いさ半ハ横は車とのいて通。世成善かあるあいつの
人かあめになりても是とて一はばど何よ付てと金銀
てはせよすの甲申成た事へとまひ曲ぐは法可人
合志とてく居あつたれとつとまいつと月来ふ登と
ぬれ懐砂をこまの口徳。大昔昔の園と元目よりとこれ
けらじつ今れせよ高ひ事一人毎よつり。是はたまた
月とひひりしと各別法高貴とて一とた所。はたは法
為よ懐り愛重箱とつりわらぬ成わつり。親の代寛永年
中れ古帳にてつらに。是年の高約七世とてはひ利わひと
と下六人にとてきまの正月とては解も母をよつとて

芳乃傳辨いを極月廿五日と古八日とてよまひ。極日中
 年つとれをそ際ある年ありてさういあめ。小野のけふ
 郷の終極よと振舞。酒乃うん大突ひすう。さうのさ
 ちゆ。内能まじれん。今我代よりて親仁の何より高
 大ふよまありて。毎の日後貴目空れ。壹帳人もそ何と海て
 十八人いあれん。あより世は高草乃あいのいれさうり
 年ありてさうり。西留屋より目借れ小判二目切のより銀二
 乃利銀と切まるん。先法にて南庄拂ひよ。けいおけ。門は
 ぬ通らまて天祥となりし。屋うりく。は舞て舞。やと草袋
 籠よある。物とて。西留屋より十八人戸棚掛取。大帳もある
 と。強うこれ。さうとさう。掛乞の音。後く。あんと。金とさう
 に。さう。大さう。けの中に。遊入あると。さう。軒とさ。夜

乃。極。日。中。の。芳。乃。傳。辨。い。を。極。月。廿。五。日。と。古。八。日。と。て。よ。ま。ひ。
 年。つ。と。れ。を。そ。際。あ。る。年。あ。り。て。さ。う。い。あ。め。小。野。の。け。ふ。
 郷。の。終。極。よ。と。振。舞。酒。乃。う。ん。大。突。ひ。す。う。さ。う。の。さ
 ち。ゆ。内。能。ま。じ。れ。ん。今。我。代。よ。り。て。親。仁。の。何。よ。り。高
 大。ふ。よ。ま。あ。り。て。毎。の。日。後。貴。目。空。れ。壹。帳。人。も。そ。何。と。海。て
 十。八。人。い。あ。れ。ん。あ。よ。り。世。は。高。草。乃。あ。い。の。い。れ。さ。う。り
 年。あ。り。て。さ。う。り。西。留。屋。よ。り。目。借。れ。小。判。二。目。切。の。よ。り。銀。二
 乃。利。銀。と。切。ま。る。ん。先。法。に。て。南。庄。拂。ひ。よ。け。い。お。け。門。は
 ぬ。通。ら。ま。て。天。祥。と。な。り。し。屋。う。り。く。は。舞。て。舞。や。と。草。袋
 籠。よ。あ。る。物。と。て。西。留。屋。よ。り。十。八。人。戸。棚。掛。取。大。帳。も。あ。る
 と。強。う。こ。れ。さ。う。と。さ。う。掛。乞。の。音。後。く。あ。んと。金。と。さ。う
 に。さ。う。大。さ。う。け。の。中。に。遊。入。あ。ると。さ。う。軒。と。さ。夜

元目そらく洞とけりすはゆりま一つ鏡のひの事と云
 知して梅の香に香花と云ふは世の後悔と云ふのけりて
 うはよき事と目よりしてかゝることを信。是も存心一なり母は
 切なりとそその事よりまはるるを。我もとくよあかき世間の介
 吹くくは悟さとりり思ひつめらるは女のよき道理も
 なり。親の時より母もあせしはるるせめて今もこれ高ひ
 事いづつとあつ。何とて世の事いふもつまり迷思もつらうこ
 いで。母親まゝのひ所と男はくくは成まきく世と云ふ。我も
 世の時の花のさうらりも織衣と付て髪と髪と下も水汲
 うらにまはりし梅の香に梅の香に梅の香に梅の香に梅の香に
 掃除せしむる世の事と云ふ。世の事と云ふは世の事と云ふ
 ぬきを。終るおの事。梅の香に梅の香に梅の香に梅の香に梅の香に



約食より前、女所、乃、遊、亦、何、用、事、俄、よ、ひ
付、て、書、之、は、習、さ、せ、以、鼻、紙、入、と、云、ま、り、と、由、も、な、く、危、り、
す、お、つ、り、。此、の、谷、此、が、愛、染、は、り、は、じ、汗、綿、菜、之、目、や、う、に
居、り、て、主、下、人、の、為、と、て、お、ま、れ、が、朝、日、女、八、目、は、膽、せ、ぬ、事、と、あ、り
に、ゆ、を、移、進、目、と、番、の、物、と、て、釣、夕、お、ま、れ、お、彩、と、笑、れ、と、い、て、さ
風、乃、吹、目、と、じ、う、ぬ、も、彩、れ、綿、入、の、布、子、ゆ、と、衣、裏、の、よ、を、ゆ、
と、も、い、し、い、万、刺、お、あ、う、お、せ、さ、り、。あ、ま、は、ゆ、ぐ、ん、の、花、を、深、れ、お、
き、う、れ、と、紐、の、帯、一、筋、と、て、染、と、作、り、埋、丸、振、帯、此、時、も、儀、事、と、
り、く、一、菊、れ、飾、り、物、お、ま、り、ん、の、帯、に、糸、草、足、袋、と、て、死、と、あ、り、に、
今、是、乃、お、ま、り、の、帯、此、れ、風、俗、と、ら、ん、に、肌、着、は、白、小、袖、と、あ、り、す
中、は、麻、子、と、よ、は、玉、烟、之、重、り、お、つ、く、に、着、車、此、後、而、と、唯、
い、て、何、そ、後、者、れ、き、こ、ま、り、の、袖、は、百、重、深、乃、白、志、也、の、帯、と、
い、て、

足、ぬ、れ、と、ゆ、い、す、と、通、り、は、腰、帯、乃、り、格、と、紐、紙、紋、で、あ、り
ら、銀、乃、弁、に、金、紋、と、居、ま、せ、り、ん、と、ま、の、帯、髪、押、入、針、子、入、ま、
七、筋、と、刺、し、。素、色、で、う、白、と、小、深、而、の、彩、と、お、ま、り、と、
二、百、重、ん、と、腰、帯、も、是、れ、木、桶、の、水、漬、付、て、き、う、。お、ま、り、
さ、れ、ぬ、ん、と、う、け、茶、編、子、乃、引、取、地、此、鼻、紙、と、垂、下、の、帯、
一、筋、と、刺、し、。素、色、で、う、白、と、小、深、而、の、彩、と、お、ま、り、と、
い、て、何、そ、後、者、れ、き、こ、ま、り、の、袖、は、百、重、深、乃、白、志、也、の、帯、と、
い、て、

世の...

の肌よりの形はむすやの良かき事一人れむぬ費あり候哉
ぐさひもほふ我も人も金銀の物をもて同様物なりとも也
もえと時をうしそく子の衣物を通じて揚げて候事せ
うらぶく候しむむこみれ死候とあり候より候事候し
うらぶく候しむむこみれ死候とあり候より候事候し
まふひもほふ我も人も金銀の物をもて同様物なりとも也
もえと時をうしそく子の衣物を通じて揚げて候事せ
うらぶく候しむむこみれ死候とあり候より候事候し
うらぶく候しむむこみれ死候とあり候より候事候し

わのそりて我身の果地なりともありのよ。依り所のふく成
かきもあつて候。ふ履の酒食よりとも人と恥を是物よりいふ
いふには合れわつぐ中ふらんおわりぬやへくをきて候
行事は念佛海の同行奉持屋の久母持よりあまされた。是
経氣うつことと形て死ぬるより同いあり合れ風風の少神并
花車れ鏡の給へん蓋障めりて候守りわけても道真へ候
て候てうらむをよ茶も席を候ねむり候し候事候し
いりありのよと死候せぬと命も定めあり。あまはるふく成
びんよむらうらむとそそ後々氣の喰物とえと守り座の敷物
あまはるふく成とそそ後々氣の喰物とえと守り座の敷物
あまはるふく成とそそ後々氣の喰物とえと守り座の敷物
あまはるふく成とそそ後々氣の喰物とえと守り座の敷物
あまはるふく成とそそ後々氣の喰物とえと守り座の敷物

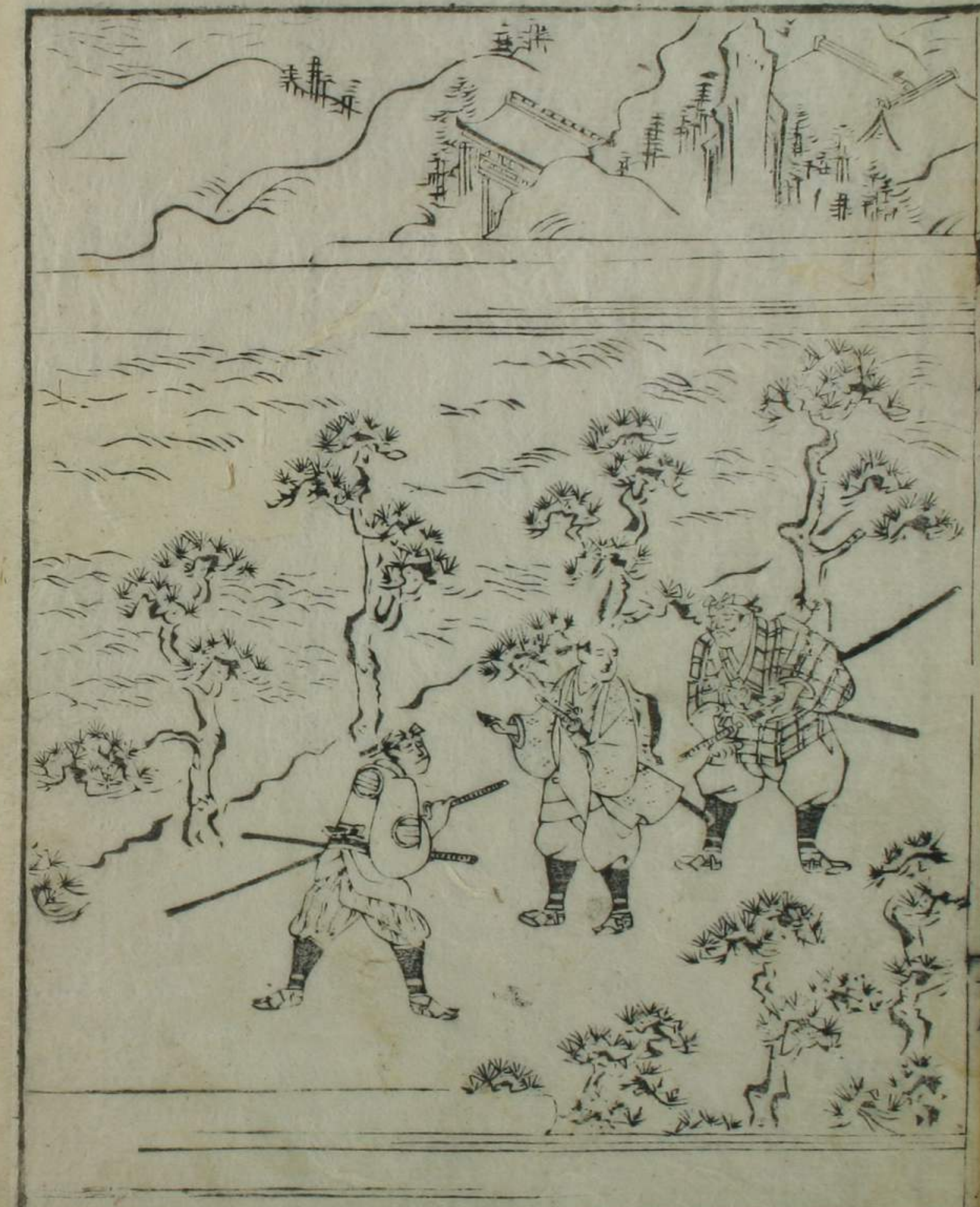
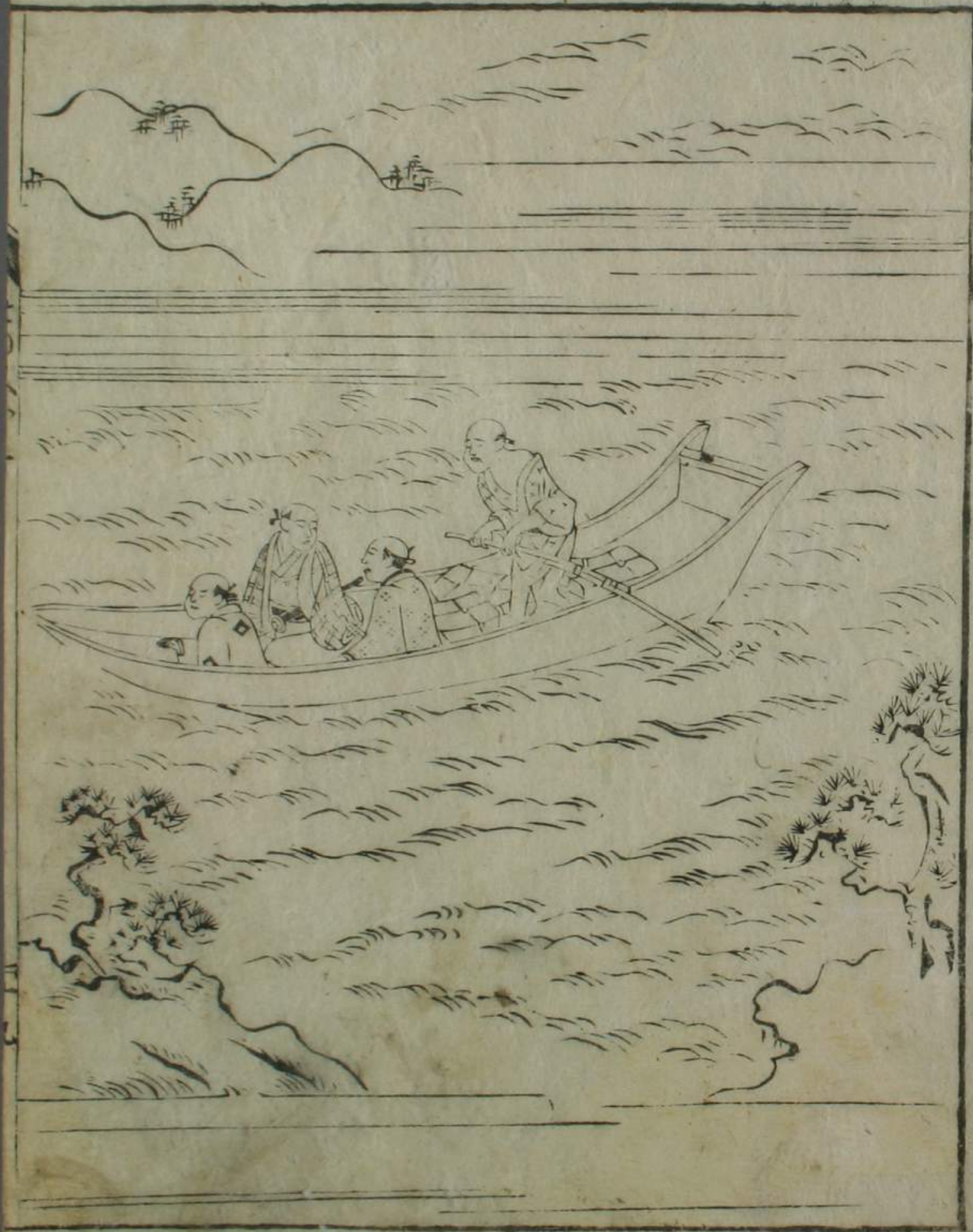
ませば家の表徴とらるゝふ女は心を耐くゝと極つて替りたるは
こゝれをうし。その男の身なりして六度受うゆき。後あるは
程の事目有りわさそ極中を境代吹々る。世は女房さるやと
別俵れさつらに事し。女も又二つびの縁付く。さつらにめ
ねらるぞうし。華南世間の物まかまらんと年は目下とて
うし。煙と又我らりからん。さうむては。提灯は物
替りけあつぬ事。とれを肉體の火は清らにやとら。び極
度とよの男に下りまねく。身と法あるをさる

四 新いをい物屋女は元

煙入道具のあゝ世間よすきて念入のいきた。かさりのとけくじ
つらう。國古れ費ふな。何事か多し。と東中長老所乃仁
とめおのけい子も同より針筒と掃く。房の物屋と煙
煙よ教も目度とさる。さうむては。とらる人。公家
御さつら。さうむては。是も賣らば。其物候。爰通う。さうむて
とれらる。常法。常んれら。綿の二布。糊え。く。と。さ。う。む。て。は。
紙身と煙ともある。に。け。帳。と。ん。れ。七。甲。角。よ。志。地。の。屋。敷。と
菊は花。紙。よ。切。あ。ん。せ。お。す。の。ち。房。よ。白。ひ。紙。代。ひ。と。び。さ。り。
る。り。し。ん。と。さ。の。傍。と。銀。は。陸。合。の。物。少。極。中。何。く。と。は。
此。事。ら。一。乳。毎。よ。入。る。の。房。と。行。法。よ。行。き。ぬ。あ。り。さ。り。
は。あ。く。み。提。燈。也。屋。の。柳。よ。宮。内。の。せ。み。川。の。親。と。ん。て。え。

時よわぬ中に後心妻とよほなりし山梨の
肉重らうくなれといふ所り家ハ神田の
れりげ 佛の宿所を何とていふ事ありて
先をせらるるさる所時ふ事いひ中へ入
あふあふしつらねの身先には世津所を
累積ハ世乃世よれ能前て今を出入り
よもつ後入帳を公家と大名もさるの
或貴去百目入る。いに紙紙おれとて
風くれ身先のくあなれは進江布れ帳
作しと約てを帳は帳とらんとせとら
つり証ありて身の証をさる。そとく
備乃河らるとはかして是は國は廣ま
なり。

なとて人むしつらなりこれ備所
肉重らうくなれといふ所り家ハ神田の
れりげ 佛の宿所を何とていふ事ありて
先をせらるるさる所時ふ事いひ中へ入
あふあふしつらねの身先には世津所を
累積ハ世乃世よれ能前て今を出入り
よもつ後入帳を公家と大名もさるの
或貴去百目入る。いに紙紙おれとて
風くれ身先のくあなれは進江布れ帳
作しと約てを帳は帳とらんとせとら
つり証ありて身の証をさる。そとく
備乃河らるとはかして是は國は廣ま
なり。



くけ。さういも人の縁よりうへに奉る奉る人乃に御子あり
かひど。我一分の力人の役もまゝなる。されど縁よりあり
事ありし。南無天女く。去を想ひて。中夏八歳。秋の禰乃
身冬の織子。そ耐く。の物成は。は女年ならり。もいふ
い。うひ。南無。宿夫。一とせと。女自らり。も女房先此
ん。う。事。そ。し。京。中。も。り。味。く。小。事。と。多。い。さ。ん。南。無。の。を
依。佛。續。縁。是。は。夜。屋。の。を。び。と。の。よ。ぬ。そ。つ。ま。南。無。の。ま。事
の。只。と。多。く。通。る。あ。ん。り。り。貴。年。一。つ。西。月。の。賀。の。び。も
ら。み。し。せ。ど。の。何。想。々。ら。み。あ。申。通。は。ぬ。こ。れ。姨。ひ。り。と
して。善。き。れ。が。い。や。世。死。く。え。れ。は。我。る。で。終。身。と
乃。も。力。を。れ。だ。び。附。の。物。入。報。三。十。月。わ。り。つ。ひ。く。後。分
縁。起。て。も。思。ひ。の。報。り。あ。の。子。で。行。と。し。り。れ。終。身。の。報

事と抄ひに。縁起の事。主は。報。ま。れ。た。事。例。も。と。き。も。入。て
思ひの。か。なり。報。の。後。目。礼。と。り。て。一。代。乃。は。合。げ。よ。び。と。う。と
ひ。在。月。又。日。よ。は。別。八。歳。と。ま。て。事。終。よ。事。れ。ら。つ。ま。ま。乃。同。分。り
拂。ひ。子。持。て。の。あ。つ。人。是。程。性。成。中。は。通。中。の。ま。れ。る。は。事。終
の。宿。此。夫。念。と。ら。あ。六。姓。の。解。の。名。也。釋。田。名。釋。の。邊。合。り。通
付。乃。善。念。よ。ま。り。一。佛。と。て。親。と。成。ん。る。に。後。山。乃。墨。暗。て。松
に。風。絶。海。舟。浪。の。音。り。く。々。と。も。海。舟。此。宗。日。和。と。い。ふ。事。事
中。く。合。息。せ。ど。は。の。く。い。は。勝。る。に。事。我。亦。ハ。歩。り。路。ま。り。行
そ。子。細。く。人。れ。今。に。誓。す。一。世。今。報。乃。善。念。と。定。め。な。れ。事。事
つ。の。事。は。是。毫。南。無。事。れ。乃。る。ん。は。御。の。い。や。に。極。め。る。同。分
若。い。者。殿。と。して。く。く。ら。る。ま。ま。で。海。り。て。け。日。和。よ。何。れ。氣
事。う。わ。る。べ。く。我。亦。ハ。小。判。子。と。言。西。持。て。け。御。の。案。を。ん。は。乃。事。事。乃。の

身とて何程の勢りあふ。大にこれ程の身とて多うの身と
いひ捨て矢標れく之の多。茶屋を平にやせりつと身にのつ
人の何とそけえ氣よ射ん志願あといひびくびくを結合うく大程
目と銀子のどし一え。身う大程におもられてついでも船
案まぬ。胸あつてて勢回よ由らる。大儀れとより高のわきこ
是ももれくどめ程よ石山乃 咄咄の以雲津也とひに松系
より案合つた男が人か。と云ふをいふと何れの事か。これ
よりくつりつまりと云ふと何れか。年を物故中流ると云
物ももどけつに。久く後てもまのまねだ。是れもく肌も付る
銀を引。少くは八程目らり。それにて相も物うたせり。後身
の程うむらと云ふか。我一生何程うせよ。此三百目
より四乃。身は極極に云ふ。世と云ふの思

